

4000万人の頭痛 150

千夜一夜の頭痛物語

頭痛専門の医師でも迷う突然の頭痛の原因
↳脳下垂体にてきるのう胞性疾患ラトケのう胞の破裂文
清水俊彦

text by Toshiko Shimizu

今回は突然の頭痛の原因として片頭痛
持ちの女性に好発するRCVS（可逆性
脳血管攣縮症候群）についてお話しいたし
ましたが、今回は片頭痛持ちでなくとも
発症し得る脳下垂体にてきる「ラトケの
う胞」という特殊な疾患についてお話し
いたします。

脳下垂体は、大脳の正中直下にぶら下
がり、成長ホルモンや甲状腺刺激ホルモ
ンもしくは副腎刺激ホルモンや乳汁分泌ホ
ルモンなどを二次的に分泌し、二次的に甲
状腺や副腎皮質などから分泌されるホル
モンをコントロールしている内分泌器官で
す。発生学的には下垂体直下にある副

鼻腔（蝶形骨洞）

からの粘膜と大脳
からの神経組織が
合体し出来上が
るため、まれに鼻
粘膜の粘液細胞
組織が迷入し、こ
れが成長とともに
のう胞を形成す
ることがあり、ラ
トケのう胞と呼ば
れています。通常
は無症状である

ことが多いのですが、まれに大きなものは
直上にある視交叉と呼ばれる左右の視神
経交叉部を圧迫し視野欠損を来す、ま
た女性の場合、乳汁分泌ホルモン異常を
来して不妊の原因となることもあります。
さらにごくまれにのう胞内に粘液が充満
し、突如排液して脳底部の大血管周囲の
神経を刺激し、突然の頭痛を来すことが
あります。

今回お示しするこの20代の若い男性は
突然の頭痛を主訴に来院しました。頭
部MRIにて脳血管に脳動脈瘤もなく、ま
たRCVSなどの血管病変はありませんで
したが、脳下垂体にラトケのう胞と、直
下にある蝶形骨洞に軽度の副鼻腔炎を認
めました。血液所見では炎症所見が軽度
上昇していましたが、副鼻腔炎で突然の
頭痛を発症することはあまりなく、また
4〜5年前にも同様の突然の頭痛が約1
〜2週間続いたこともあったようです。こ
の方のラトケのう胞は通常よりも、のう
胞壁が肥厚しており、このことから過去
に何回か排液と炎症を繰り返していたこ
とが想定され、今回も数年ぶりにのう胞
内のタンパク質濃度の高い粘液を排液した
ことによる化学性髄膜炎が最も疑われま
した。確定的な診断は数カ月後のMRI

フォローによ
るのう胞のサ
イズ変化の観
察が必要で
が、生命予後
に支障を来す
ことはないも
のの、まれに
起こり得る突
然の頭痛の原
因として常に
考えておかな
ければならな
い疾患なので
す。

Profile

日本脳神経外科学会認定医、日本頭痛学会監事を歴任。日本頭痛学会認定専門医。
東京女子医科大学病院脳神経センター頭痛外来客員教授、学校法人東京女子医
科大学 評議員、獨協医科大学神経内科学講座臨床准教授、一般社団法人グリー
フケアパートナー理事。

ほかに、汐留シティセンターセントラルクリニック、阿見第一クリニック、小山すぎ
の木クリニック、伊豆大島医療センターの頭痛外来を担当。

昭和61年3月日本医科大学卒業。学会活動をはじめ、NHK「きょうの健康」「クロー
ズアップ現代」など、テレビ出演も多い。「頭痛女子のトリセツ」（マガジンハウス）
をはじめ、頭痛関連の著書多数。2024年6月号より、ANAグループ機内誌『翼
の王国・TSUBASA -GLOBAL WINGS-』にて『雲の上の診察室』連載中。



新刊「ウルトラ図解
おとなと子どもの頭痛」
監修/清水俊彦
法研（本体1600円+税）
2月18日（火）発売



蝶形骨洞炎は軽度で、のう胞壁がやや白く炎症性に肥厚したラトケのう胞を認める。今回の突然の頭痛の原因として、のう胞内粘液の突然の排液による化学性髄膜炎が最も疑われた。

